

所謂「丸三問題」について

此度、所謂「丸三問題」が導火線となつて、本社第一乃至第十六醸造工場従業員諸子が總罷業を決定することになりましたが、この間の事情に就て會社としての立場をはつきりと申して置きたいと思ひます。

今月一日、丸本運送店が開業して、會社では、從來丸三に扱はして居つた貨物の一部を割いて取引を始めました。然る所工員諸子は之を以て丸三の經濟的基礎を危くするものであるとし、更に丸本に會社との間に何か默契でもあるかの如く云ひ觸らし、會社が丸本を以て、丸三を潰し又會社は暴力團を用ひて労働組合の切崩しをなすものであるとしました。そこでまづ丸三に對して

(1)、貨物を全部丸三に扱はしむる様荷主たる會社に交渉すること

(2)、従業員的生活を保障し、日給制度とする事

の二項を以て交渉し結局断られたこの事ですが、そうするに丸三や丸本の背後に會社が居ることの理由で、會社に向つて交渉して参りました。その理由とする所は

(1)、丸三の従業員は今生活の脅威を感じて居るから荷物を全部扱はせて貰ひたい

(2)、丸三に對して會社は出資關係があるにも拘はらずその營業不振を齎す如き事を敢てして省み

ないのは、丸本、丸三に默契を結んで、組合切崩しをやるのであると思ふが如何

右によつて丸三對従業員の問題は必然的に野田醬油株式會社對労働總同盟野田支部の問題となる、といふ事でありました。

會社では並木工場課長が代表を引見して、交渉兩度に及びましたが、貨物を何人に扱はしむるかには荷主の自由であつて他人の容喙すべき限りでないのみならず、組合側では丸三の夫人は今、日收三十錢位の事もあり、平均一圓内外で生活の脅威を受けるに言ふけれども、丸三につき、實査する所によれば昨今の如き貨物少き時で、^④に仕事の一部を命じた後即九月一日から十三日に至る平均手取り日收は一圓四十八錢に當り出入貨物の増加に連れて日收も増加する次第ゆへその理由の乏しい事も判り旁々丸三の従業員の生活を保障する事は本社としては全く筋違ひの事なので、之は、はつきりとお断りしました。

然し會社としては丸三は從來の關係もあり、出資もして居りますので決して之を棄てて顧みないといふ譯ではありません。その繁榮は衷心冀望して居ります、只荷物の取扱ひ方や運賃の關係から^④に一部現在では約三割以内を委せたといふに過ぎません。又暴力團云々の事も、全く爲にする所の浮説で決してかかる事は御座いません。

次に丸本、丸三と會社との關係については丸三の繁榮は前陳の通り會社として衷心から望んで居る所なので、決して道途傳ふる如き奸策は致しません、白日の下に於て、かかる行爲、たごへば耳を蔽ふて鈴を盗む様な暴舉を敢てし得るものかどうが大抵常識で判断出来る事ではありませんか、陰謀や詐略によつて人の不爲を謀ることは會社では決して致しません、況んや多少でも出資して居る^⑤の自滅を圖る様な事がどうして出来ませう。

かりに、會社が労働組合を切崩すとしても、果して特に丸三に就てのみかかる事をなしてトクがあるべきものかどうかは大方の御賢察を得らるゝこと、信じます、全く無体の言ひがかりで會社としては近頃迷惑の至りです。

労働組合側では「丸本ガ丸三ニカハリツツアル」ので會社に交渉すると申して居りますが、會社では會社の作爲を以て丸三を潰すつもりはありませんが、決して故意にそんな事は致しません、然し荷扱ひが丁寧であり、運賃の安い店へ荷主が荷物を扱はせるのは世上自然の成行です、でありますから、反面からいふと、この事柄を解決するのは一に丸三従業員の態度一つであるともいはれます、會社では出来る丈丸三を援助したいと思ひますが、營業競争の上から自然衰退する様な場合は此の限りでありません。

要するに、丸本と會社とは出資其の他經營の本體に付て何等の特殊關係はありません。之を疑つて種々の流言に驚き遂にストライキを行ふに至つたのは全く遺憾千萬であります、又丸三従業員の生活の保障といふ事も會社としては直接之に容喙し關係すべき限りではありませんので、つまり労働組合の言ひ分は全く誤解に出發した云ひ懸りを見る外ないのであります。

更に労働組合では「榊田や茂木の一家が、素性も判らぬ流浪者を雇ふて「野田の地に住み馴れた良民を」苦しめるといひますけれども、之又、全然無根の事柄です「茂木の一家」が「良民」を苦しめたかどうか過去の事實に就いて正當の御判断を乞ふこと、改めて申しません、又「良民」を苦しめることは、果して如何なる人々の如何なる事柄に對して云ふべきかについても大方の御賢察を乞ひたいと存じます。

組合では又「決して戦を好まない」といひますが、會社でも決して戦は好みません、只ない事をない、出来ない事を出来ないといふ云つたまで、その間少しも他意ありません。出来る丈、事を起さない様居常戒慎して居ります、之等の点も御諒察を願ひたいと思ひます。

然し、妙な経緯から、事が起りまして、町及附近村々の方々にも御迷惑を及ぼす事は、會社として、衷心遺憾且申譯のない事である点深く御詫申上げる次第で御座います、茲に經過の梗概を披陳し取敢へず大方の御諒恕を冀ふ次第で御座います。